

## 千葉県環境審議会鳥獣部会 アカゲザル小委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和3年1月13日(水)  
午後2時から午後3時30分
- 2 開催場所 ホテルプラザ菜の花 榎  
千葉市中央区長洲1-8-1
- 3 出席者  
【委員】羽山伸一委員(委員長)、丸橋珠樹委員、役山多佳志委員、  
飯塚和夫委員、富谷健三委員、網城修委員、小野恵二委員  
  
【県】能條自然保護課長、三井副課長(鳥獣対策)、他自然保護課職員
- 4 議案  
議案第1号  
第2次千葉県アカゲザル防除実施計画の策定について
- 5 審議結果  
上記4の議案について審議がなされ、原案どおり議決された。
- 6 その他  
第1号議案については、令和3年3月10日開催予定の千葉県環境審議会鳥獣部会での審議が必要であるため審議結果を報告する。
- 7 主な質疑  
推定生息数と農業被害について  
Q 5年前の生息数と昨年度の推定生息数、傾向を教えてください。  
A 平成25年度は500頭と推定していたが、新しい群れが見つかったりして、現時点での具体的な数字は分からない。群れ単位の個体数を把握しているのはカウント調査を実施した群れのみである。  
Q 農業被害の増減はどうか。  
A 館山市は被害の増えている可能性はあるが、考えているほど報告はない。南房総市は増えていると感じているが数字の根拠はない。被害を受けたくないところ(単価の高い果樹がある場所など)に増えてきた。

Q 数値がない以上は感覚的なところからやっていくしかない。感覚的なものを集めれば、現状把握の一助になるのではないか。情報提供は JA や農政部を巻き込んでやったほうが良い。

A 生息域北側にあるビワの産地にアカゲザルの生息域が拡大することが懸念されるため、拡大部の群れの捕獲に重点をおくことを明記している。

Q 当初は4群であったが、現在は19群になっている。理由は何か。

A 新たな群れの発見など、様々な要因が考えられ、捕獲により群れが分裂したかどうかの因果関係は不明である。群れ数が多いことは不安に思われるが、群れ数を減らすことを第2次計画に明記している。

Q 小規模の群れと大規模の群れがあると思うが、それが分かっているのならある程度の生息頭数は出るのではないか。

A 感覚的な数値を評価に使うことはできないので、正確な数値を出すためにカウント調査等を継続して生息頭数を把握したい。

Q 生息頭数を把握するまでのスパンを明示してほしい。

A できるだけ速やかに把握するように努める。

Q 農業者に被害状況のアンケートをとれば、群れの頭数把握（増減）と捕獲の評価は分かるかと思う。

A 地元からの情報収集が課題と考えている。頂いた情報をフィードバックできるような仕組みを作れば情報提供も増えると思うので、体制を構築していきたい。

Q 被害を受けた農業者が、自ら報告することは少なくなっていると思う。こちらからアンケートを取りに行かないと情報が来ない可能性があるなので、アンケート調査を実施するのが良い。

A 類似のアンケート調査は過去に実施しているが、ニホンザルやイノシシを対象としたものだった。そこで、アカゲザルの情報も得られた。今後はアカゲザルを項目に含めて、アンケート調査を定期的に行いたい。

#### 捕獲について

Q 地元市の設置したイノシシわなでアカゲザルが捕獲されたときにも、殺処分をできるようにしていくべきである。

A 錯誤捕獲については既に、殺処分できる処置を講じている。

Q 一般従事者ではサルを殺処分することは難しく、心情的にもつらいのではないか。専門家のような慣れた人が止め刺し実施するような仕組みがあっても良い。

A 現在、捕獲を許可するだけでなく捕獲の講習会を開いている。  
また猟友会の協議会が銃器による止め刺しをしていたり、専門業者にお願いして発信器装着に供している場合もある。

Q 大型檻以外の捕獲として想定しているものはあるか。

A くくりわなによる捕獲や檻におとり個体を入れての捕獲を検討している。

#### 計画の目標について

Q 外来生物全頭駆除が目標だが、各期の目標を立てて、第2期でどこまでやれるかを明記し、段階的に説明できる流れが必要ではないか。

第2次計画ではどこかの群れで根絶をさせる必要がある。

A 段階的な目標を立てるために、全体の個体数の把握がまずは必要だと思う。その後はロードマップを作成し、中長期的な計画を作成していく。

Q 3群についてカウント調査の結果が記載されているが、この数字が出た経緯を教えて欲しい。また今後も継続して調査するのか。

A ニホンザルの個体数調査手法として確立されているカウント調査を、令和元年度から大規模な群れについて試行的に実施したもので、3群で調査できた。群れによっては使用できない可能性があり、センサーカメラを使用した個体数推定を試行する。今後もこれらの手法を用いて個体数推定を進めていく。

#### 8 主な意見

- 個体数については参考資料3に詳しいデータが記載されている。本計画には生息頭数は記載されていないが、大きな群れの個体数推定と捕獲強化が計画に示されており、評価ができる。大きな群れへの発信器装着を進めて欲しい。
- 大きな群れを把握して、ロードマップと年度ごとの事業実施方針を作ることが、第2次計画の肝になる。ようやく方向性が見えてきた。過去10年に比べてはスピードアップする。